

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 28 年 2 月 1 日発行

第 37 号

発行人 校長 鈴木史良

大会初の赤組、白組同点？

—— 校内かるた・百人一首大会で古典文化を楽しむ ——

1月29日(金)の3、4校時に、チューリッヒ日本人学校恒例の「かるた・百人一首大会」を開催しました。2校時の授業を終えた児童生徒たちがぞくぞくと体育館に集まり、赤組、白組に別れて取り札数を競い合いました。どの子どもたちも赤や白のハチマキを締め、気合は十分。児童生徒会執行部による開会式後、まずは低学年による「かるた」取りがおこなわれました。ここから赤組、白組の戦いの始まりです。中学年以上の子どもたちは、白組も赤組も低学年の「かるた」取りの場を囲むようにして応援しました。戦いは小学部2年生と1年生の直接対決。出だしは2年生が好調でしたが、中盤は1年生も盛り返してきて、白熱

したよい戦いになりました。しかし、最後には2年生が年上の実力を示して、25枚対19枚で勝利をおさめました。

「かるた」取りで使用されている読み札の文言は、本校のオリジナルです。私も今回初めて知りましたが、スイスやウスターでの生活の様子子どもたちの目線でそのままカルタに表現されており、とてもおもしろいと思いました。ここにいくつか紹介いたします。



ハイ！ という声とともに勢いよく伸びる手

- こ —— こんにちは スイス・ドイツ語 グリエッツィ
- む —— 昔から りっぱなお城 ウスター城
- も —— もう春だ ゼクセロイテン たのしいよ
- な —— 夏がきた スイスのプール つめたいぞ
- あ —— あつあつの いちばんおいしい ブルストだ
- ら —— ラクレット じゃがいもチーズ おいしいぞ

グリエッツィやウスター城、ゼクセロイテンはこの地で暮らす子どもたちならではのもの。夏には水泳の授業が隣接するウスター市営プールでおこなわれますが、日本のプールに比べて水温が低めなので、子どもたちにはその冷たさが印象深いのでしょうか。ブルストやラクレットなど、食べ物も含めて、スイスならではの、ウスターならではの「かるた」を私たちに残してくれた本校の先達に感謝の気持ちを抱きました。

「かるた」の終了後、引き続き「百人一首」をおこないました。小学部3年生から中学部3年生までの子どもたちが、百首の和歌に挑戦。中学年、高学年、中学部と、3つのグループになり、赤組、白組に分かれて取り札の前に相(あい)対しました。始まるまでのわずかな時間に、子どもたちは取り札を真剣な目で見つめ、どこに何かあるかを記憶している様子などを見ると、ぴりぴりした緊張感が伝わってきました。

お互いに挨拶、審判の先生への挨拶、読手への挨拶を済ませて、いよいよ開始です。

「難波津に～ 咲くやこの花 冬ごもり～
今を春めと 咲くやこの花～」

読手の声が体育館内に響き、戦いの幕が切っ
て落とされました。「春過ぎて～ 夏来にけらし」、
「いにしへの～ 奈良の都の」、「秋の田
の～ かりほのいほの」など、つぎつぎに読
み上げられる歌に、子どもたちも素早く反応
していきました。取ろうと思っていた札を先に
とられたという悔しい思いが顔に表れたり、次には自分が覚えていた札を取ったとき
のうれしさが満面の笑みになったりと、状況が目まぐるしく変化していきました。暗
記している和歌は、上の句を詠み始めた瞬間に、「はい。」と取り札に手をつくという、
周囲をうならせるレベルの高さを見せてくれた子どもも少なくありませんでした。得
手、不得手はありますが、幼少期から正月に日本の古典文学にふれ、慣れ親しむのは
すばらしいと思います。



佳境に入り白熱する高学年の戦い

かるた・百人一首大会結果発表

児童会長の中里美涼さんから、結果が発表されました。まず、全校児童生徒が赤組、
白組に分かれて戦った対抗戦の結果はどうだったでしょうか。それぞれ個人が取った
札の合計で競われました。赤組170枚：白組170枚。なんと同数で両組優勝とい
うことになりました。過去の歴史の中にもこのようなことがあったのでしょうか。

＜個人の部＞ 低学年「かるた」の部 優勝 成田そのかさん
 中学年「百人一首」の部 優勝 神吉 喜一さん
 高学年 " 優勝 中里 美涼さん
 中学部 " 優勝 高野りさ子さん

赤組、白組とも同点の優勝、おめでとうございます。また、個人の部で優勝した子
どもたちも、優勝できなかった子どもたちも、みんなで競技を楽しめました。

最後はつきたての餅で締めくくる

緊張した「かるた・百人一首」大会の後は、
餅つき大会をおこないました。全員が臼の中の
餅を杵でつく体験をし、つきあがったあつあつ
の餅をちぎって丸餅をつくりました。子どもた
ちは餅粉を使ってきれいな形に整え、お盆の上
にたくさん並べて出来上がりです。あんこやき
なこをまぶしたり、のりと醤油をつけたりして
食べる、できたての餅の味は何とも言いようも
ありません。餅を食べている子どもたちの間に、
自然に笑顔が広がります。日本の伝統文化を舌でも味わい、幸せな一日となりました。



おいしいお餅を食べて大満足！